

矢作川流域圏懇談会通信

海部会編 vol. 4



発行日：平成 25 年 8 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 4 回海の地域部会、第 11 回海部会WGを開催しました！

8 月 5 日に第 4 回海の地域部会、第 11 回海部会 WG を開催しました。WG では、東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟にて、生き物調査を行い、その後、調査結果について、ふりかえりを行いました。



日 時：H25 年 8 月 5 日(月) 10:00~14:45

活動場所：東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟

会議場所：西尾市役所幡豆支所 2F 中会議室

参加者：17 名（事務局含む）

◆主な活動・会議内容

1：東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟にて、生き物調査を行いました。



東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟にて生き物調査を行い、干潟の生物、生息環境の違いを観察しました。



東幡豆町天然干潟



西浦地区人工干潟



25×25cm の範囲を調べます



生物名と個数を調べます



マテガイもたくさんいました！

※調査結果は裏面に記載しています。

2：西尾市役所幡豆支所にて、ふりかえりを行いました



調査後、見つかった生物の種類や干潟による生物、環境の違いについて、ふりかえりを行いました。また、ごみ・流木調査の本調査に向けて、調査場所や連絡体制についての話し合いを行いました。

【主な内容】

- 調査の結果、東幡豆町天然干潟で9種、西浦地区人工干潟で5種の生物が見つかった。
- ごみ・流木調査の本調査は、出水後、事務局と西尾市でごみ・流木の状況を把握し、メーリングリストにて、調査場所・時間を周知することとなった。
- 人工干潟は、砂の粒径が均一で生息する生物も限られるため、上流のダムを砂を持ってきて、人工干潟の改良実験を行ってはどうか、という提案があった。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。



3：第 4 回海の地域部会にて、役員改選を行いました



第 4 回海の地域部会にて、座長に 大阪大学大学院 青木伸一教授、副座長に 名城大学大学院 鈴木輝明特任教授 が再選されました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤



TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆干潟生き物調査の結果

●東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟 25×25cm 当たりの坪刈り（深さ 20cm）の調査結果は、東幡豆町天然干潟で 9 種、西浦地区人工干潟で 5 種の生物が見つかった。また、東幡豆町天然干潟のアサリの平均殻長は、31mm であった。

写真		種類	NO.1	NO.2	NO.3	NO.4	合計 (個/m ²)
東幡豆町 天然干潟		アサリ	22	8	9	6	96~352
		シオフキガイ	1	-	1	2	16~32
		アラムシロガイ	4	1	10	-	16~160
		ウミナ	1	-	-	-	16
		マテガイ	1	-	-	2	16~32
		シマハマツボ	-	-	2	1	16~32
		マメコブシガニ	1	-	-	-	16
		ヤドカリ	1	1	3	-	16~48
		ゴカイ類	1	-	-	-	16
		アサリ稚貝	-	-	-	1	16
		シオフキガイ稚貝	7	-	-	5	80~112
							9種類
西浦地区 人工干潟		バカガイ	2	1	7	2	16~112
		カガミガイ	-	3	3	-	48
		マテガイ	-	1	-	-	16
		シズクガイ	4	-	-	-	64
		カンザシゴカイ	1	-	-	-	16
		バカガイ稚貝	1	-	-	-	16
		ガザミ脱皮殻	-	-	1	-	16
							5種類

◆話し合いでの主な意見 (●意見 ▶回答)

① 干潟生き物調査のふりかえり

- 西浦地区の人工干潟については、4月の調査で 47 種確認できた。現在は、造成中ということもあり、かなり種類が確認でき、今日はそのうちの 5 種が確認できた。(蒲原)
- 天然干潟と人工干潟の違いとして、天然干潟には巻貝がたくさんいた。人工干潟は、粒径も均一で急勾配のため砂が溜まりにくいのが、天然干潟は、泥や有機物がたくさん溜まっていた。(鈴木)
- 流域圏懇談会で、上流部のレキや砂などを人工干潟に持ってきてはどうか。(高橋)
- 大規模でなくてもダンプ 1 杯分の砂で実験的にやってみてはどうか。(青木)
 - ▶ 実際にレキを入れた成功事例がある。国や県の補助事業で連携してできると思う。(鈴木)

② ごみ・流木調査本調査に向けて

- 調査場所として、古川の河口はよく溜まり、船も通るので良いところではないか。また、矢作川の河口地点もいいと思うが、すぐ流れていってしまう。(高橋)
 - ▶ 船が通る場所は、漁師さんがすぐ片づけてしまう。調査しやすい場所が良いと思う。(河原)
- 出水後の西尾市のパトロールの際に、調査場所に丁度いい場所を見てもらってはどうか。(鈴木)
 - ▶ 事務所も出張所があるので、出水後は巡視を行い、調査場所を選定する。調査場所と時間はメーリングリストでメンバーに周知する。(西原)



ふりかえり

会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。

よかったと思うこと

2ヶ所の干潟の生物多様性の差が実感できた。/自然と人工の干潟の差がよく分かった。

今後取り組んでいきたい活動など

人工干潟の改良試験の idea が出たが、実現することが流域懇談会の役割だと考える。/山砂の人工干潟使用。

よくなかったと思うこと

いつもながら参加者数が・・・？

今後のスケジュール (予定)

次回 海部会第 12 回 WG を 9 月 9 日 (月) に開催します

船で渥美半島先端付近まで出かけ、その途中の貧酸素区域や深掘跡など 3ヶ所で水質調査を行います。

